



2025年

5月

中国四国農政局
徳島県拠点

有機わかめを養殖する安部さん（小松島市） 国内で数例の有機藻類JAS認証を取得

小松島市和田島町でわかめ養殖を行う「カネタ水産」代表の安部敏一さんは、令和6年4月に国内で数例の有機藻類JAS認証を取得し、令和7年から「有機わかめ」を出荷しています。

3月から5月の繁忙期は、早朝5時から収穫したわかめを、海水でボイル～冷却～塩蔵の作業を安部代表と息子さん2人で行い、奥さんが、茎とりの作業をしています。



有機藻類JAS規格は令和3年に制定され、藻類や養殖場が使用禁止資材による汚染を防止する措置を講じること、使用する漁具は可能な限り繰り返し使用可能なものであること、付着した生物の除去は手作業で行わなければならないことなどが規定され、環境に配慮した管理を構築し、持続可能な漁業に貢献することが期待されています。



「カネタ水産」の安部代表（右）とご家族の皆さん

安部代表は、『徳島県沿岸で収穫したわかめは、有名ブランド「鳴門わかめ」の名称で流通することができ、和田島で収穫したわかめの多くは「鳴門わかめ」として販売されていました。

和田島のわかめは、肉厚で県下でもトップクラスの品質を誇っており、うちのわかめは20年前から「鳴門わかめ」ではなく「和田島わかめ」として販売しています。「有機わかめ」が世間一般に認知され、認証に掛かる経費等を販売価格に反映できるよう、また、消費者からおいしいと喜ばれる品質の良いわかめを育て続け、「和田島わかめ」のブランド化に向け、これからもがんばっていききたい』と話されました。



有機いちごを栽培する田渕さん（徳島市） 四国で初の有機いちごのJAS認証を取得

徳島市多家良町でいちご農園を運営する「BUTTOBI BERRY ORGANIC（ブットビ・ベリー・オーガニック）」代表の田渕善昭さんは、いちご栽培1年目の令和4年、病害虫に弱く栽培が困難とされる有機栽培に挑戦し、四国で初めていちごでの有機JAS認証を取得しました。15アールのハウスで有機栽培に取り組み、令和4年1月から直売所やオンラインストアによる販売に加え、徳島市ふるさと納税返礼品としての需要が拡大しています。



BUTTOBI BERRY ORGANICの田渕代表

令和6年1月からは、日本政策金融公庫の「トライアル輸出支援事業」を活用して、アラブ首長国連邦（UAE）のドバイへ有機いちごの輸出を始め、航空便で毎週12パックを輸出し、約400キログラム出荷しました。

田渕代表は、『「ぶっ飛び」とは、本来高く突き抜けるといった意味があります。徳島から世界一のいちごを作りたいとの思いで「ブットビ」という名前にしました。今後の目標は、日本初有機いちごの生産者団体を創設して、富裕層市場への輸出を拡大し、儲かる農業スタイルで後継者育成に取り組みたい。』と抱負を述べられました。



有機JASとは、有機食品（農薬や化学肥料などの化学物質に頼らないことを基本として自然界の力で生産された食品）について農林水産大臣が定める国家規格です。

有機食品のJASに適合した生産が行われていることを登録認証機関が検査し、その結果、認証された事業者のみが有機JASマークを貼ることができます。

◎「News Letter」は、原則奇数月に発行しています。

編集：中国四国農政局 徳島県拠点

〒770-0943徳島県徳島市中昭和町2丁目32番地

TEL (088)622-6133(内線403) <農政局HP> <https://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>